

調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

令和元年11月29日

志摩市議会議長 様	報告者	会派名 自由クラブ志摩 議員氏名 山下 弘
年 月 日	令和元年11月20日(水) ~ 令和元年11月21日(木)	
時 間	20日 午後 0時30分 ~ 午後 5時00分 21日 午前10時00分 ~ 午後 1時00分	
参加者氏名	前田 俊基・山本 桂史 (他会派と合同研修)	
用 務 先	住 所	東京都江東区有明3丁目11-1
	名 称	東京ビッグサイト
目的・内容	<p>目的：鳥獣対策・ジビエ利活用展見学 ジビエサミットセミナー参加</p> <p>内容：鳥獣対策・ジビエ利活用展を見学し、日本におけるジビエ対策の状況を学ぶ ジビエメニュー化セミナー「ジビエ部位の特徴と料理のポイント」を受講し、ジビエを料理に生かす工夫を学ぶ。</p>	
成果・所感	<p>(研修内容)</p> <p>① 志摩市展示ブースの状況確認と他出店ブースの調査 ② 「ジビエメニュー化セミナー、ジビエ部位の特徴と料理ポイント」受講 (本市に導入できること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・猪・鹿においては、古くから合歡の郷にてメニュー化されており何の無理もない。志摩市では、災害時の避難食にも対応可能な食品化も目指してほしい。 ・コンポストにへい獣とおがくずを投入し堆肥化させる装置や、ジビエ残渣や小型鳥獣の焼却炉などは、猟友会やジビエ処理業者は保有すべきである。 ・鳥獣害の捕獲、撃退にICT・IoTを用いた最新捕獲システムが展示されている。音と光による撃退システムなど有効で、農家への供給が可能か。 <p>(本市に導入した場合の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野生動物は品質の均一化が最大の課題 ・豚コレラのイメージをどうするか ・高級価格は一般的に受け入れられない。価格設定をどうするか。 <p>(今後の検討)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食肉、製品の取り扱い拠点、販売流通手法、価格設定、 ・有効なPR (日本食肉消費流通センターとの連携) 	

・料理教室の開講（調理技術の向上）

※今後再度この鳥獣対策・ジビエ利活用展に出展する場合のあるべき姿

①講師は市内事業者である事

市外事業者（ジビエ料理店経営者）が講師役では志摩市の為にならない。

② プロの技術で説得すべき

高い調理技術を持ったプロフェッショナルであるべき。

市内でジビエ料理を提供し、かつ知名度のあるホテルや料理店に協力を仰ぐことが求められる。

③ 知名度の高い人材や屋号（看板名）をもつことが必用

市の職員や昨日今日始めた俄が料理人の話はジビエ肉も偽物臭くなる。

美味しい！の説得力は、人や看板の説得力がものを言う

※市が一番にすべき事


① 市内におけるジビエ店の開店支援

② 高級料理になり過ぎない有害鳥獣の利活用の奨励

③ ジビエ料理が日常になる料理レシピの公開

調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

令和元年11月29日

志摩市議会議長 様	報告者	会派名 自由クラブ志摩 議員氏名 山下 弘 
年月日	令和元年11月21日(木)	
時間	午後 1時30分 ~ 午後 3時00分	
参加者氏名	前田 俊基・山本 桂史(他会派と合同研修)	
用務先	住所	東京都江東区有明3丁目8-35
	名称	防災体験学習施設「そなエリア東京」
目的・内容	目的：防災体験施設「そなエリア東京」見学 内容：防災体験施設「そなエリア東京」を見学し、防災知識を学ぶ。	
成果・所感	<p>(研修内容) 体験ツアーに参加し施設内容を見学 ※体験ツアーは、10階建てビルのエレベーター乗車中に地震に遭遇すると仮定され、スタート時に渡されたタブレットで誘導されながら、被災直後の臨場感ある暗い町の中を歩き被災状態を疑似体験する。</p> <p>(施設概要) 東京臨海広域防災公園内の広大な敷地内にあるこの施設は東京直下地震の災害体験学習施設であり、地震発生後72時間の体験学習ツアーや、震災に対する展示や防災知識を深める学習ができる。また、実際の災害時には、「災害現地対策本部」がおかれ、被災情報の把握と応急対策のオペレーションを果し、医療活動の支援基地や被災者支援のスペースとなる。平常時は公園を開放し、スポーツやバーベキューを楽しめる公園となっている。施設内は1階が体験施設、2階が学習施設。 ※学習施設は中央公園が避難場所という設定で、シートで作ったテントや災害トイレなど、東日本大震災の避難場所が再現されている。中でも、避難所の段ボールの仕切られた生活スペースや災害時の非常電源、避難具として衛生用品の重要性が訴えられている。防災学習ゾーンもあり、災害時の様々なシーンに対する心構えを学ぶことができる。</p> <p>(本市に導入できること) 東南海大地震の発生率が年々拡大する今、地震、津波を含めた災害時の心構えを学習施設を設置し市民に目で理解を促す施設があっても良い。 特に災害時の町の状況のシミュレーション映像であったり、避難生活の現実と避 </p>	

難用品の活用法など、学校では教えられない現実を学ばせることができると考える。また、高齢者に対しても自覚を促す機会となる。

(本市に導入した場合の課題)

予算、場所、市民の理解

調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

令和 2年2月25日

志摩市議会議長 様	報告者	会派名 自由クラブ志摩 議員氏名 山下 弘
年 月 日	令和 2年 2月 3日 (月)	
時 間	午後 1時00分 ~ 午後 2時30分	
参加者氏名	山下 弘 前田 俊基 山本 桂史 (他会派との合同研修)	
用 務 先	住 所	福井県大飯郡高浜町宮崎 86-23-2
	名 称	高浜町役場
目的・内容	<p>目的：国体先催地の開催状況を学ぶことで、2021年の三重とこわか国体の志摩市開催競技の円滑な運営と、志摩市の来訪者の増加および満足度向上を図るための参考とする。</p> <p>内容：福井しあわせ元気国体2018のトライアスロンの開催地である高浜町の開催概要、開催に向けての取り組み、結果等についての視察研修を行う。</p>	
成果・所感	<p>(研修内容)</p> <p>高浜町役場にて斎藤議会事務局長の出迎えを受け、上尾徳郎議長の挨拶の後、永禮総合政策課長を中心に3名からトライアスロン競技開催について概要説明があり、質疑応答を実施。</p> <p>開催当日は台風25号の襲来を受けたために、開催時間を2時間遅らせ、スタンダードなオリンピックディスタンス(51.5Km)競技をスプリントディスタンス(半分の25.75Km)で実施。また、皇室の観覧を受ける予定であったが台風により中止となったとの事前報告も受けた。</p> <p>感想として、国体開催をうけ5年前から具体的に計画を練り、町の整備(観光振興)、地元活性化(飲食・宿泊)人の確保(ボランティア)、もてなし(歓迎装飾)、人材育成(学校観戦)、共同活動(グループ活動での共通ダンス)など熱心さがうかがえた。また2年前からは、数多くの事前イベントや地元活動の場で、ほぼ毎月積極的な広報活動を実施し気運醸成を図っている。</p> <p>例として以下の内容を多数回繰り返しどのイベントにおいても実行しており、地道で計画的、根気の必要な活動である。</p> <p>※P.Rブースの設置(パネル、チラシ等)と国体グッズの配布 ※トライアスロン競技用バイクの試乗体験 ※地元ダンスグループによる「ハピネスダンス」の披露</p>	

※国体開催までのカウントダウンカレンダー用写真撮影

※プロの紙芝居師によるトライアスロン紙芝居口演を子供会で実施

さらに、LINE@の公式アカウントを設け競技に関する事前情報を公開。

競技の見どころなど便利情報を公開している。

(本市に導入できること)

ほぼ全て

(本市に導入した場合の課題)

志摩市においても台風の可能性を考えた計画の準備が必要

皇族を迎えることとなる。担当者を設け接遇に関して十分な打合せの必要あり

ボランティアは高浜町で160名である。さらに上回る人数を必要とする。

学校観戦実施の要領(応援方法、応援グッズ、)

観戦ガイドブックの作成(ソフトボール、ボクシングを含めた共通ガイド)

駐車場の設置とシャトルバス送迎

トイレの設置(広範囲であり複数箇所必要)


横断幕、のぼりの設置準備

漁業者の理解

警備・防災

調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

令和 2年2月25日

志摩市議会議長 様	報告者	会派名 自由クラブ志摩 議員氏名 山下 弘 
年 月 日	令和 2年 2月 4日 (火)	
時 間	午前 10時00分 ~ 午前 11時30分	
参加者氏名	山下 弘 前田 俊基 山本 桂史 (他会派と合同研修)	
用 務 先	住 所	福井県敦賀市中央町2丁目1番1号
	名 称	敦賀市役所
目的・内容	<p>目的：国体先催地の開催状況を学ぶことで、2021年の三重とこわか国体および三重とこわか大会の志摩市開催競技の円滑な運営と、志摩市の来訪者の増加および満足度向上を図るための参考とする。</p> <p>内容：福井しあわせ元気国体2018のソフトボールおよび福井しあわせ元気大会2018のフットベースボールの開催地である敦賀市の開催概要、開催に向けての取り組み、結果等についての視察研修を行う。</p>	
成果・所感	<p>馬淵議長の挨拶を受け、土手議会事務局次長、教育委員会スポーツ振興課倉谷課長による説明を受けた。敦賀市では既に国体準備室は解体されており、唯一、倉谷課長が在籍していた。福井県敦賀市での国体競技は、9/15~10/8まで、水泳、卓球、ソフトボール(少年女子)、弓道、軟式野球、空手道の6競技、また、10/13~15の日程では、障がい者競技のフットベースボールと水泳も開催された。開催種目の多さでは志摩市以上の規模であるが、ソフトボールと障がい者競技のフットベースボールについてのみ様々調査した。</p> <p>敦賀市では、5年前からスポーツ振興課内に国体準備室を設置(兼任4名体制)、3年前には国体推進課に格上げ(兼任5名)2年前に任期付職員を含め26名体制、前年は任期付職員を含め31名体制、開催年は33名で挑んでいる。</p> <p>1年前に開催のリハーサル大会では、選手にとっては国体同様の全国大会であり、正式なタイトルがついた大会であることに配慮し「リハーサル大会」ではなく「プレ大会」の名称で統一したとの談。</p> <p>① 予算について、1年前 703,430千円、開催年 899,218千円、この内、訳40%が県支出金、残りはほぼ一般財源である。この大半は実行委員会への支出となるが、さらに実行委員会には、競技団体負担金、県負担金、大会参加料、売店使用料なども加わり大型予算となった。</p>	

支出面でソフトボール競技は、プレ大会12,697千円、開催年52,754千円で、既存設備を使用のため全体予算に対し大きな出費とはいえない。資金面の協力は主に協賛企業に頼ったが、お金の協賛は県が受け持ち、市は主に物品の提供を受けることに専念（のぼり旗、タオル、歓迎フロアシート、タウン誌への無料掲載、コンテナハウス、等）。

- ② 観光ガイドブックは作成せず、既存の観光ガイドブックを増刷し使用。国体専用印刷物は、開催競技アクセスガイド、観戦ガイドのみ。この中に、コンビニ、コインランドリー、薬局、ガソリンスタンドの位置を落とし込んでおり、大いに参考になる。
- ③ 学校観戦として、生徒1人1回は生の競技を観戦する方針を打ち出し、校長会に依頼してきており、観戦スケジュールを実行委員会で協議して決定してきたとの事で、これは福井県選手の出場時間帯に合わせ、送迎バスを活用するためである。
- ④ 広報活動は、HP以外に、ツイッターやインスタグラムなどSNSを活用。また、各種イベントに出向きPR（800日前から延べ416回）。また、自主イベントを開催「競技開催〇〇日前イベント」と銘打ったPR活動を展開。※ハピネスダンスを学校授業に取り入れたことで生徒も全員踊れた。とにかく盛りあがりづくりに苦勞した様である。
- ⑤ 休憩所の無料ドリンクは、炭酸飲料、お茶、水、果汁飲料、スポーツドリンクなどであるが、メーカーから協賛される量では賄いきれないらしい。おもてなし面で、特産品の無料振る舞いは、数量などの事前調整や当日の労力が負担になるばかりか不足し、肝心の選手に届かず効果が低いため、思い切って実施せず。代わりに500円の金券（クーポン）を手渡し各所の売店で活用できるようにしたことで、公平性も生まれ良い結果につながった。
- ⑥ 行啓については、正式発表が約1か月前。県からは、開催年の1月ころ内々の打診あり。詳細の詰めは、県の行啓担当窓口と密に行う（競技会場は、国体推進課が担当、ご休憩施設、沿道等は、総務課が担当）。
- ⑦ 会場設営の業者選定は、リハーサル大会の前年にプロポーザル方式で決定。※国体専門の業者がある。地元業者では不可能なことも多い。
- ⑧ 警備・消防防災については、会場に消防本部を設置し地元消防署職員を常駐させた。定期巡回を行ったほか、救急時にも対応でき、初動体制を確立できた。
- ⑨ フットベースボールの障がい者対応については知的障がい者であるため、健常者と同様の設備で可能。団体行動で移動も専用のバスである。駐車場の確保が必要。この大会の参加チームは7チームであったとのこと。障がい者スポーツ大会は県が運営主体である。会場設営、競技運営などの準備は県が行う。早い段階で県と話を煮詰め市の業務負担の軽減を図る必要あり。
- ⑩ 競技用具は、近隣自治体で所有している物は、出来る限り借用することで経費の節減につながる。
- ⑪ ボランティアなど人員確保については、市民に募集をかけることが必要。様々な役割があるが、競技役員（競技団体側の人材）、競技補助員（高校生など）、

医師、看護師、警備員、運営ボランティア（受付対応、ドリンクコーナーなどおもてなし、会場美化）、駐車場の整備は警備会社に。


※自治会には役割り負担を願せず、一市民としてのボランティアとして登録依頼した。

志摩市としては、リハーサル大会でも多くの選手・関係者・観戦者が志摩市を訪れることになる。駐車場の確保と、会場へのシャトルバス運行はもちろん、交通状態を考慮した事前対策・検討が欠かせない。

また、経費節減の手法、ボランティアの募集についてもアイデアを振り絞り他市町に後れを取らないことが肝心であり、経費削減にもつながる。心して当たる重要なポイントであるため、危機感をもって日々確認し合うことを勧める。

調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

令和 2年2月25日

志摩市議会議長 様	報告者	会派名 自由クラブ志摩 議員氏名 山下 弘 
年月日	令和 2年 2月 4日 (火)	
時間	午後 2時00分 ~ 午後 3時30分	
参加者氏名	山下 弘 前田 俊基 山本 桂史 (他会派と合同研修)	
用務先	住所	福井県吉田郡永平寺町松岡春日1丁目4番地
	名称	永平寺町役場
目的・内容	<p>目的：学校給食無償化の先進地において学ぶことで、志摩市での導入の是非および問題点のあぶり出しと、その解決方法の参考とする。</p> <p>内容：学校給食無償化に平成 25 年度より福井県内でも初めて取り組みを行っている永平寺町において視察研修を行う。</p>	
成果・所感	<p>(研修内容)</p> <p>午前中の敦賀市役所での視察時間が延びたこともあり、昼食もそこそこに急ぎ永平寺町役場へ向かう。2月ではあるが積雪が皆無であることが進行を助け、予定通りに到着。役場では江守功永平寺町会議長の出迎えと歓迎挨拶をうけ、教育委員会学校教育課多田課長と平田順子主査が、学校給食無償化の先進的取り組みについての説明と、我々からの質問に丁寧に答えてくれた。</p> <p>永平寺町は、昭和 29 年から平成 18 年にかけて町村合併が進み、現在人口 18,420 人、約 6,300 世帯。平均年齢は 43 歳。観光、繊維、農業が主産業ではあるが、福井大学医学部松井岡キャンパスや、福井県立大学本部永平寺キャンパスを持ち、中学校 3 校、小学校 7 校と、合併以降も変わらず維持。議会は 2018 年に議員数 18 人から 14 人に縮小し現在に至る。交通アクセスも良く、北陸自動車道、中部縦貫道が走り、2023 年には待望の北陸新幹線開通を待つ。曹洞宗大本山永平寺の門前町として宿場町として栄え、肥沃な田園地帯からは特A米が生産され、町内には銘酒で名高い黒龍酒蔵など 2 軒が残る。</p> <p>① 永平寺町が給食費無償化に至る経緯、 子ども医療費の無償化や、福井県内で保育料を最も低く設定するなど「子育てしやすいまちづくり」を推進する中で、さらなる新規事業の展開を追求し提案</p>	

された事業。子育て世代の経済的負担の軽減や住み良さを実感できる環境整備を整えることで、将来にわたって少子化対策や定住促進を図った。

② 恒久的な財源確保について、

平成 25 年 4 月に無償化をスタートさせた当初は、繰上償還や借換を積極的に行い公債費の抑制に努め、財政調整基金は町村合併があった平成 18 年以降一度も取り崩すことがなかった。

③ 無償化以前の滞納者への対応は、

納付の遅延者はあったが、滞納する家庭はもともと大して存在しなかったようで、滞納になる場合は、保護者会の開催時に徴収したり、学年主任が自宅に徴収に回った。母子家庭で滞納が出た場合は、就学援助費を申請依頼し、支給の際に徴収。生活保護家庭には、社会保健課からの助成金支給時に徴収した。要するに遅延はあっても滞納に繋がらなかった。

④ 無償化対象者と給食提供数、給食単価は、

小学 1 年生から中学 3 年生まで（町内在住者）が対象で、
小学児童 957 人、中学生徒 509 人、計 1,466 人 教員を合わせ 1 日 1,700 食
※町内在住者は無償、町外の時、一食当り小学生 262 円、中学生 313 円を徴収

⑤ 公費負担額と財源は、

公費負担額「楽しいおいしい給食事業」	91,774,401 円
「学校給食管理運営諸経費」	118,648,631 円（人件費・光熱水費）
計	210,423,032 円

財源 「ふくいの地場産学校推進事業補助金」679,050 円（県より年 3 回）

※永平寺町年間予算額 約 90 億円に対し教育委員会予算 14 億円 15.5%

その内 2.1 億円が給食費

※平成 25 年、26 年当時の「議会と語ろう会」で地域住民との聞き取りで配膳室に空調設備がなく衛生面で安全が担保できないとの声があった。

この時は、8,800 万円の費用を要し、給食費の必要に駆られた。

⑥ 食べ残しの状況は、

残飯はほぼ皆無である。

理由として、事前によく食べるグラスの聞き取りを行い、配缶の際、量調整している。また、高学年には多めの配缶を心掛けている。

⑦ 幼稚園、保育園の取組は、

令和元年 10 月から保育料無償化となった事で、保護者からは賄材料費として月額 4,500 円を徴収している（主食の御飯は毎日持参）。保育料無償化前は 5,000 円であったが、500 円は町が負担したうえ食材の質は維持している。

⑧ 無償化を実施して、どのような声があるのか。

※アンケートを実施し、以下の 3 項目について保護者の声を集約している。

① 経済的負担軽減について

② 給食無償化事業が「子育てにやさしい町」「子育てに手厚い町」に効果をおもいますか。

③ 「給食無償化に使っている予算の一部を教材、学校の修繕、学校行事等に

回すべき」という意見について

(賛成意見)

- ・学校での給食費徴収業務が減り、教職員の負担軽減となった
- ・子育て世代が経済的に救われる
- ・子育てしやすい町として、少子化対策や定住促進に効果が期待できる

(反対意見)

- ・食調理施設の環境整備の方を進めるべき
- ・町民の他の要望に対応すべき
- ・全額負担でなく一部負担でよいのではないか
- ・食べたものに支払うのは当然である

(本市に導入できること)

- ・保護者に対し、上記と同様のアンケート調査を行ってみる必要あり

(本市に導入した場合の課題)


- ・財源確保が主題である。ふるさと納税をあてる考えもあるが将来にわたりあてにできる財源となるのか疑問である
- ・本当に少子化対策、定住促進に繋がるのか、志摩市の地域性も検討要

(今後の検討)

- ・完全無償化が現実に必要なのか
- ・段階を経た進め方を十分検討する必要あり

調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

令和 2年2月25日

志摩市議会議長 様	報告者	会派名 自由クラブ志摩 議員氏名 山下 弘 
年月日	令和 2年 2月 5日 (水)	
時間	午前 9時30分 ~ 午前 11時00分	
参加者氏名	山下 弘 前田 俊基 山本 桂史 (他会派と合同研修)	
用務先	住所	福井県勝山市元町1丁目1番1号
	名称	勝山市役所
目的・内容	<p>目的：勝山市の行っている「ふるさと勝山回帰事業」について学ぶことにより、志摩市の人口減少に歯止めをかける参考とする。</p> <p>内容：「ふるさと勝山回帰事業」の内容である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業HPとポータルサイトの構築 ・企業紹介冊子の作成 ・企業説明会の内容充実 ・企業体験プログラムの実施 <p>について視察研修を行う。</p>	
成果・所感	<p>(研修内容)</p> <p>市議会議長、副議長、総務文教厚生委員会委員長、建設産業委員会委員長ら全員が不在で、議会事務局長の山岸氏の挨拶に始まり、勝山市産業・観光部商工観光ふるさと創生課北川課長、秦主任の2名から「ふるさと勝山回帰事業」に関する説明および質疑応答に応じて頂いた。</p> <p>「ふるさと勝山回帰事業」は、若者の市外への転出に対し、U・Iターンを促すきっかけづくりを行い、主に首都圏からの移住定住を促進するための施策である。この事業には、一般財源 11,000 千円に加え、国庫支出金で 11,000 千円の補助金を受け、総額 22,000 千円が投じられている。以下の通り聞き取りと質疑に関する内容を取りまとめる。</p> <p>勝山市の平成 31 年 3 月 31 日時点の人口は 7,961 世帯、23,186 人であり、このまま手をこまねくと 2040 年には 16,779 人となる見込み。このため行政のテコ入れにて 20,323 人程度に留めたい努力事業である。</p> <p>【アンケート調査による勝山市の若い世代の状況】</p> <p>若者の転出数は転入者を上回り、多くは高校卒業と同時に進学等のため首都圏</p>	

に向かい、そのまま都会で就職してゆく。若者の多くは小中学校の頃は「将来も勝山にいたい」「一旦は転出するが戻ってきたい」と考えている。しかし、3割程度はいったん地元に戻るが、再度転出してゆく。その理由として「就職する場所がない」と、従来より言われているが実際には市内の中小企業は慢性的な人手不足で、求人倍率は隣の大野市も含めると2.03である。高い技術力をベースに特定分野において有数のシェアを誇る優良企業があるにも関わらず、学生はもとより親世代にも知られていないのが実情。

【勝山市の地域情勢】

一方で勝山市は恐竜化石の発見で一世風靡し、市内には20周年を迎える県立恐竜博物館（40体の恐竜化石を展示し、年間90万人の入館者がある）や、繊維産業で栄えた時代の絹織物工場遺産、はたや記念館「ゆめおーれ勝山」、東急リゾート経営のスキー場「スキージャム勝山」などが存在する、小さくまとまった城下町である。令和5年に開通が待たれる北陸新幹線の開通や中部縦貫自動車道の大野東IC～油坂出入口も令和5年の供用開始。「道の駅」恐竜渓谷ジオパーク（仮称）は、令和2年度の供用開始など、周辺のインフラ整備も整いつつあり将来展望は明るい町であり、人の流出も含め首都圏を対象にしている地域である印象

【地方創生・人口減少対策の具体的な取り組み】

- ① 映画「えちてつ物語 わたし、故郷に帰ってきました」の制作
 - ・ 福井市と周辺4自治体を結ぶ「えちぜん鉄道」を主な舞台に、Uターンした若者と家族の物語を制作会社と自治体の連携で制作
 - ・ 市内企業や福井テレビ、福井放送にも資金面や情報発信面等で参画を募り連携
 - ・ キャスト、エキストラは沿線自治体住民の参画を広く募り、ガバメントクラウドファンディングで一般の寄附も募る
- ② 首都圏の大学とコラボしたふるさと勝山回帰ショートムービー制作
 - ・ 三大都市圏の学生を対象に、ふるさと回帰に係る幅広いジャンルの企画募集
 - ・ 制作作品は、首都圏において発表会を行い、市のシティープロモーションとしても活用
 - ・ 日本大学芸術学部と勝山市民のコラボレーションにより、U・Iターンをテーマにしたドキュメント形式、アニメーション形式など5本のショートムービーが完成
 - ・ 日本大学で発表会を実施、Youtubeにて全映像を公開
 - ・ 日本大学でのPR活動
- ③ 市内企業と連携した市内就職者の確保対策
 - ※ある市内企業の人事担当者への聞き取りで、県内企業説明会に参画し、これに参加した500人の学生の内、この企業ブースを訪れた学生は、半日で僅か3人であった。「知名度が低い」「人のつながりが無い」ことが要因で、知ってもらうことの重要性を感じたという

・勝山市独自の支援策

1. 企業体験プログラム……企業インターンシップの支援

市内中高生へのアプローチ強化

※市役所が一括募集……市役所体験と4社程度をそれぞれ1日ずつ体験する、市内企業向け起業塾の実施。採用コンサルティングを招聘し、インターンシップ起業塾を開催。自社の魅力の深堀と発信力・プレゼン技術を指導

※給与より社長の個性（面白さ）や業務内容を重視する傾向もある

※若年起業家の話を聞く

2. 勝山市としての起業ポータルサイトの構築

勝山市お仕事紹介として起業ポータルサイトを構築

※町の魅力、仕事の魅力を盛り込む

※企業独自ページとも相互リンク

3. 企業紹介冊子の作成（「いんとろ」年度別に作成）

※企業の人材確保に向けたツールとして活用

※平成30年度は20社掲載→平成31年度は、企業側からの要請により50社に拡大掲載

この冊子「いんとろ」とウェブの両方でPR強化

【令和2年度に計画される実施事業】

① 市内企業を中心とした関係人口創出事業

- ・全国の大学生を対象に、市内企業をフィールドとしたミッション提携型の長期インターンシップを実施（1か月程度）
- ・首都圏においてダブルワークに興味を持ち、自身のスキルを活かしたいと考える人材を募集し、市内企業が求める人材とマッチング
- ・UIターン促進に向け、移住者スカウトサイトを活用した情報発信・マッチング事業

② 市内企業向け採用活動支援事業

- ・大学生との意見交換会等による生の声を得る機会の提供
- ・インターンシップカリキュラムのブラッシュアップ
 - ※就職説明会等におけるプレゼンテーションスキルアップのサポートなど採用活動の支援
- ・新たな採用手法を学ぶ起業塾を実施
- ・高校生向け仕事体験プログラムの実施
- ・市内企業PR冊子「いんとろ」とリンクするWEBサイトの更新

【視察者側からの質疑に対する回答】

① 勝山市出身者への魅力発信のための発信先名簿を如何に得たのか？

回答：1. ふれあい市民事業の活用

※毎年実施される左義長祭りや、各種イベント参加者より出身者を特定

約 1,500 件に対し、町の情報冊子「ROOTs」を送付

2. 地元勝山高校との連携

※同窓会名簿の活用（勝山高校、勝山南高校）平成 29 年度～の卒業生

② 勝山市出身者へ発信した市内企業情報内容と実績は？

回答：さらに勝山市企業紹介誌「いんとろ」にポータルサイトもリンクした情報を発信。首都圏で働く勝山出身者情報と U ターン者の情報も掲載市内のみならず、転出先での交流も促している

③ 企業体験プログラムの実施状況と評価・実績は？

回答：1. 中学・高校生には地元企業の意識づけ

※アンケートにて ○興味がわいた……96%

○住み続けたい、いずれ帰って来たい……93%

○市内企業で働きたい……80%

2. 大学生はインターンシップ参加者増と採用者増

※インターンシップ参加者 平成 30 年……24 人

平成 31 年……25 人

※取り組んだ市内企業への就職者 平成 30 年……10 人

平成 31 年……15 人

④ 商工会議所など外郭団体との連携は？

回答：「ふるさと回帰研究会」の発足

※商工会議所、「ハローワーク」、勝山市観光町づくり(株)などと協力

令和 2 年度からは、「勝山しごと人研究会」を持ちたいと話し、年に 6 回又は 12 回の活動を考え、さらにパワーアップさせる

(本市に導入できること)

① UI ターンを考える人に対して、働く・住む・暮らす、の観点から細かく様々な施策を打っている

・移住就職支援事業補助金（予算額 1,800 千円）

※県主催の就職サイト敬愛企業に就職するため市内に移住した場合、補助金を交付 ● 単身 60 万円、世帯 100 万円

・移住促進民間賃貸社宅助成事業補助金（予算額 240 千円）

※市外から移住する従業員の為に借り上げた民間賃貸社宅費用の一部助成

● 月額 1 万円（上限） ● 補助期間：2 年間 ※志摩市にも類似施策あり

・移住促進市外通勤支援給付金（予算額 96 千円）

※市外から移住し、市外の事業所に通勤する方への給付金

● 月額 2 千円 ● 給付期間：2 年間

・介護及び医療人材確保奨励金（予算額 1,700 千円）

※市外からの移住者又は勝山市に住所を有する新規卒業者で、市内の介護サービス事業所の従事者及び医療機関の看護師・准看護師として勤務

した方への奨励金 ● 年額：10 万円 ● 交付期間：3 年間

・勝山暮らし体験ツアー

※市内へ移住を検討している方に、勝山を体験し魅力を感じとってもらうためのツアーを実施（農業・雪国体験、子育て環境・空き家・職場見学）
・移住者交流会（予算額 120 千円）

※安心して住み続けてもらえるよう定期的な情報交換の場を提供
（本市に導入した場合の課題）

- ① 志摩市の魅力ある中小企業の整理（強味と将来性）
- ② 会議主導の机上議論と、真剣に取り組む組織体制づくりができるか